留学生から

雑　談

李　　紅　軍（化学専攻　博士課程３年　中国）
（先端科学技術研究センター　秋元研究室）

私は三年前、中国の南京から来日し、東京大学大学院理学系研究科博士課程へ入学しました。三年の間、得るものも沢山ありましたが、いろいろな面で感じることも多く、心情は複雑です。どのように紙面の上で表現したらよいか、わかりませんが、私の感じるところを少しばかり書きたいと思います。

私は結婚のため、日本へ参りました。（妻は日本人です。）南京は歴史の上で、日本との悲惨な過去がありました。しかし、それは歴史の一部のことであって、自分自身は科学研究者として、日本で勉強ができることをうれしく思い、一生懸命勉強し、よい研究成果をあげられるように努力することを決意しました。そんな状況の中、研究室の歓迎会でのことが、いまでも忘れられません。私の経歴を自己紹介した時、ある学生が“南京”のことを知らなかったのです。私は歴史上の日本に関する悲惨な話などしたくありませんでしたから、どう説明したらいいかわからなくなりました。東京大学の学生とは、日本人学生の中の精鋭だと私は思っていましたから、これが日本国の精鋭かと思うと、日本の将来に失望を感じました。私自身の将来、さらに私の次の世代の将来にも不安を感じました。

学生として、勉学に励むことは最も大切なことですから、私の不安はさておき、一生懸命勉強することにしました。しかし、日本の勉強方法、研究方法などは中国と大きく違っています。私は留学生として、いろいろな困難にぶつかった時、チューター、指導教官、国際交流室の先生方の暖かい応援をいただきました。同時に、わたしは昔の自分自身に勝ち、どんどん独立性を増すという、自由社会の生活に欠かせない重要なことを知りました。一昔前の中国では個人に十分な自由がなかったため、独立性が欠落していました。私は日本へ来る前、南京大学で五年間の職経験があり、中国の社会環境に慣れてしまっていたから、この新しい日本の社会環境になれるように、一生懸命努力をしました。これも私の人生の一大収獲であり、私の今後の人生に非常に有益であると思います。もし、他の中国留学生が私と同じ問題を抱えていたら、私が助言できることは「すべて自分のことは自分で努力しよう」ということです。

私の場合、妻がいつも神社で私のために祈ってくれたおかげかもしれませんが、運が非常によかったといえます。私の研究は地球表面の大気中に自然発生するハロゲン化合物の動態解明に関する研究です。これらは地球生命に大切なオゾンに重大な影響力をもっています。私の研究は非常に順調です。非常によい研究データも出て、国際会議参加のチャンスもいただき、自信をもって有名な先生方とディスカッションをする機会も得ました。私は、このようなおもしろい研究ができて、非常にうれしく思っています。社会生活の上だけでなく、研究においても多くのことが収得できました。

順調にいけば、数ヶ月後、私は学位をいただくことができます。しかし、私はこれから現実社会に直面し、自分の将来について真剣に考えていかなければなりません。私が今研究している地球の大気環境を考えると非常に心配なのですが、私が生活している現実社会の環境の方がもっと劣悪なのかもしれません。例えば、世界中で行われている様々な研究が中国人に対して、まだ開放的でないように思われます。また日本経済の不景気や中日関係も国交以来最低点を脱したばかりで、将来どのようになるか誰もわかりません……

今、私が留学生として、日本に対して何がいえるでしょうか？私は日本は非常に複雑な社会だと思います。その中で国際交流室の皆様は日本の社会の中のわずか少数ですが、日本の将来のため、世界の平和のために貢献していると思います。交流室の皆様は、留学生たちの心にあたたかさを与えてくれています。私はここで国際交流の熱心な先生たちに心から敬意を表します。同時に、私も私の勉強を一生懸命助けてくれる妻に対して、心から敬意を送りたいと思います。おかげで、私は、世の中の愛と暖かさを感じて、将来の社会にすこし希望を感じました。これからも、まず、すべて自分のことは自分自身で努力し、また同時に皆さまの御助力もお願い致したいと思います。

色々を書いてきましたが、これは、私の“雑談”です。

学会後の国連見学